

中学校国語科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答	〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点
問一	㉑	4		3
問二	㉒	2		各 3 × 2
	㉓	3		
問三	X	1		3
問四	Y	3		3
問五	3			5
問六	近代小説において、世界をある一つの立場から統括し、整合的に語るべきだという理念のもと、誰がどのような立場で語るのかという「資格」が厳しく問われ、人称について小説の中で一貫した視点で世界を描く必要があるという制約。(106字)		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10
問七	筆者の述べる「必要に応じて読者と作中世界とをつなぐ「私」とは、小説の場面によって、読者に全体を俯瞰して語って示す三人称的視点をよそおったり、特定の人物に寄り添って読者に情景を報告する一人称的視点をよそおったりすることで、自身が存在しないかのように抑制的にふるまう語り手のことである。 この筆者の主張を踏まえると、【資料】における語り手の視点には、場面全体を俯瞰するように語る「三人称的視点」に、下人の視点をよそおい、下人の判断を代弁する「一人称的視点」が隠れていると考えられる。 なぜなら【資料】には「幅の広い梯子の中段に、一人の男が、猫のように身をちぢめて、息を殺しながら、上の容子を窺っていた」とある。「息を殺しながら、上の容子を窺っていた」という描写は、下人の様子や動きを俯瞰的に捉える「三人称的視点」から語られていることが分かる。この視点は、筆者の述べる「世界を統括する主体を求める近代小説の要請にも応えようとしている」という主張に当てはまると考えられる。 それに対して、【資料】には「この雨の夜に、この羅生門の上で、火をともしているからは、どうせ唯の者ではない」とある。文末が「ではない」と断言する表現となっていることから、「どうせ唯の者ではない」と見なした主体は下人であると考えられ、これは下人の「一人称的視点」から語られる描写であると言える。「三人称的視点」から語られる描写であれば、文末は「どうせ唯の者ではないと下人は見た」という、下人の動きを俯瞰的に捉える描写となると考えられる。これらのことから、「この雨の夜に、この羅生門の上で、火をともしているからは、どうせ唯の者ではない」という描写には、下人の視点に立ち、下人の判断を代弁する実況中継者としての役割が隠されており、筆者の述べる「隠れた「私」が自在に立ち回り、伝統的な和文脈の性格を生かし」ているという主張に当てはまると考えられる。		問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	24
問八	㉔	刊行	語として採点する。	各 2 × 5
	㉕	矛盾		
	㉖	そうせい		
	㉗	へいめい		
	㉘	虚構		

64

中学校国語科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答	採 点 上 の 注 意	配 点
二	問一 4		3
	問二 3		3
	問三 4		3
	問四 A 夜が明けてしまったので	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 6 × 2
	B ご出発なさることはできないだろう		
	問五 女の親が易の占いをしていたということ。(19字)	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5
三	問六 易者であった女の親は、生前、女の様子から金があることがわかると女が使い果たしてしまうと考え、十年後に旅人がやってきた際に、その旅人に貸している金を返してもらうように女に伝えた。十年後にやってきた易者である旅人は、女の親の占った通りに、占いによって女の親の行動の意図を見抜き、金のありかを教えた。このように「易のうら」は物事の成行きを予見するものであると言えるから。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	1 4
	問一 2		3
	問二 3		3
	問三 3		4
	問四 3		4
	問五 どうして(魚を)獲れないということがあるのでしょうか。(確かに魚は獲れます。)しかし、翌年には魚がいなくなるでしょう。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	6
四	問六 咎犯の策は、敵を欺くことで勝利に導くというものであった。咎犯の策に対して、雍季は、詐偽の道であり、当面の対策としてはよいが、長久の術ではないと述べた。それを聞いた文公は、雍季を咎犯よりも高い地位に就けることで、目先の事だけではなく、長期的な利益をもたらす策を重視する意志を示そうとしたから。(145字)	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	1 4
	生徒が、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるようにするために、何のために、誰に対して、どのような意図をもって書くのかなどの、書く目的や意図に応じて、集めた材料を比較しながら取捨選択したり、ある観点から分類したり、情報と情報との関係を見いだして整えたりするような学習を行わせることが重要であると考えられる。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	1 2

中学校国語科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答	採 点 上 の 注 意	配 点
五	「徒然草」第五二段と第二三六段を「読む人を引き付け、教訓を得ることができる」という目的において文章の構成と表現の効果について比較し、分析した結果は次のとおりである。 まず、文章の構成についての分析である。第五二段は、冒頭に「年よるまで、石清水を拝まざれば、心うく覚えて」とある。この叙述から、読者は法師の石清水に対する信仰心を知り、法師の人物像を具体的に想像することができる。また、結末の「少しのことに、先達はあらまほしきことなり。」という叙述は失敗から得られる教訓となっており、書き手の、読み手に教訓を伝えようとする意図が明確に表れた構成となっていると考える。 一方、第二三六段は、「上人の感涙いたづらになりけり。」という結末で締めくくられている。これは失敗の顛末であり、教訓を示しているとは言えない。しかし、「上人いみじく感じて」や「なほゆかしがりて」とあり、これらの叙述から、上人は疑問に感じたことについて冷静に考えることができていることを読み取ることができる。これらのことから、読み手は、上人の失敗から教訓を捉え、失敗の理由について様々に思いを巡らせることができると考える。 次に、表現の効果についての分析である。二つの章段の相違点として、文末の表現を挙げる。第五二段の地の文は、文末に「けり」が多く用いられている。これは、法師の言動が一文ごとに完結していることを表しており、法師の言動を一つ一つ丁寧に捉えさせる効果を生んでいる。また、読み手は、法師の言動から、法師の失敗の理由について深く考えることができ、書き手がなぜ教訓において「少しのことに」と述べたのかを理解することができる。と考える。 一方、第二三六段の地の文には、「感じて」や「涙ぐみて」、「言えば」とあり、「て」や「ば」などの接続助詞が多く用いられている。これは、登場人物の言動が畳みかけるように続くことを表しており、テンポよく話が進む印象を与える効果を生むとともに、結末の「上人の感涙いたづらになりけり。」という叙述が読み手に印象強く残ることで、上人の失敗について考えさせる効果を生んでいると考える。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	50